

「森林環境教育」について

1 はじめに

森林環境教育は、森林内での様々な体験活動を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深め、その生活、環境、森林という様々な分野における問題を解決するための手段の一つとして、提示されています。

林野庁では、毎年「森林環境教育研修」が行われており、今年は、6月4日(月)から6月13日(水)の10日間で東京都八王子市 林野庁森林技術総合研修所で実施されました。その研修に参加しましたので、研修内容を紹介します。

2 研修の主なポイント

今回の研修内容は、「森林環境教育の基礎知識」「森林環境教育の課題」「森林環境教育の実践」の3つに大きく区分されていました。

(1) 森林環境教育の基礎知識

森林環境教育を行う対象として、一般の方と学校に区分されますが、ここでは学校教育について述べたいと思います。学校教育の中に森林を取り入れてもらうことはとても大事です。当センターにも、各地の学校から野外学習等に訪れています。

学習の中で森林を扱うポイントとして、

1つ目は、感覚と感性に訴えるために、適期に枝打ちや間伐を実施した人工林の美しさや、季節感を感じられる天然林の美しさを実感できること。

2つ目は、「伐らないことによって山が荒廃する」といった現実の森林の様子が具体的にとらえられること。

3つ目は、鎮守の森等から生活と森林との「かわり」が具体的にイメージできること。

4つ目は、天竜川下流(静岡県)の洪水対策のために750haの植林をして山づくりを行った金原明善のように、歴史や文化から人と森林とのかわりが見えること。

5つ目は、森林を守り育てる作業を通して、その苦勞や重要性を知り、適度に木を伐ることが森林を守ることへつながるような体験を促進することです。

また、先生方や子供達の森林のとらえ方は、「自然や環境」に対する関心は高い反面、「森林」に対する理解(知識)は、森林とのかかわりが薄く、実際の体験ではないということから、木を伐る事の意味、外材輸入などは、正しい理解ができていません。

上記のことを踏まえながら、「森林」を環境教育の場所として使うには、いろいろな体験ができる場所、森林に対する正しい知識を得られる場所、人と人とのかわりをつくりあげていく場所の3つが上げられます。

そして、環境教育の場所として森林に入って大切なことは、“見て・触れて・嗅いで・聴いて・味わって”実物に触れ合うことです。体験することによって、子供達等の印象に残り、感動を与えることができます。

(2) 森林環境教育の課題

森林環境教育を巡る問題は様々ですが、今回の研修では、「人材開発」、「情報発信」、「連携強化」、「企画」、「ビジョンの共有」という5つのテーマがあり、私は、森林環境教育をはじめいろいろな物事を実施するうえで、「人材開発」が大切と考えました。「人材開発」の課題は、「指導者の育成」と「企画・運営できる人材の育成確保」ということです。

ア指導者の育成

指導者は、森林に興味を持っていることと、森林に対する正しい知識を持っていることが大切です。一般の方や子供達に森林の現状を正しく伝え、そこから環境の問題を見つけて、「自分なら何が出来るか。」の考えを子供達等に持ってもらわなければならない。そのために指導者は、インターネット等からの情報収集や、森林関係研修を積極的に受講し、絶えず知識の吸収を行わなければならないのです。

イ企画・運営できる人材の育成確保

企画・運営できる人材は、多くの経験を積むことが大切なので、実践経験を積む機会を多くすることや企画・運営研修を多く受講することです。

また、普段から多くの方と接して、人材情報の確保をしておくことも重要です。運営関係では、さまざまな関係機関（学校、行政機関等）が、協力することができれば、より充実したレベルが高い環境教育が出来るはずで、当センター指導部では、「森林環境教育」の相談や資料配布していますので、お気軽に相談ください。

3 林業総合センターの取り組み

林業総合センターでの森林環境教育の取り組みとしては、森林学習展示館において、「林業作業体験」、「市民講座」及び「森林教室」を実施しています。

「林業作業体験」は、森林に親しみを持っている皆さんに、一歩踏み込んだ体験を通じて森林を健全にするための施業方法を理解するための講座です。1年間を通し12回の講座を開催していますが、40人の定員を超える応募があり、森林作業への関心の高さが伺えます。（写真-1）この講座の卒業生の中には、森林環境教育を実践している方もおります。



写真-1 ヒノキの苗木を植える林業作業体験の受講生

「市民講座」は、森林を理解するため、「森林と林業」に関して年度毎に時勢に合った講座テーマを決めて、年6回（1回40名程度）開催しております。この講座は、毎回継続して参加される方もおり、講座を受講された皆さんから熱心に多くの質問や提案が寄せられています。

「森林教室」では、森林内の体験やそこに住む動植物たちの観察を通して、身近な森林に親しみ理解を深めてもらうことを目的とした講座です。主

な内容としては、各季節の森林観察や「やきいも」、「隠れ家作り」などの体験活動、また、木材を使って工作をする「木工教室」などがあります。本年度は、4月の「シイタケ栽培」から始まり来年の3月の「木工教室」まで合計27回（募集1200人程度）開催しています。（写真-2）



写真-2 森林教室で落ち葉を集めて遊ぶ参加者

森林に親しんでもらうための1つのプログラムとして、森林に入り落ち葉を集め、その時に「なぜ葉が落ちるのか?」「紅葉はどうしてするのか?」を学び、森林への理解を深めるための「落ち葉遊び」を実施しています。

4 おわりに

森林環境教育は、それぞれの立場で、森林環境に対する問題意識を持ち、解決するための行動に移る人を育てることです。森林環境教育を具体的に、実施する場合に、森林を使うアイデア集として、平成14年に長野県林務部と中部森林管理局と共同で発行した、「森は友達・森は先生」があります。ここでは、「葉っぱジャンケン」「森の落とし物調べ」等、森林の使い方のプログラムが数多く掲載されています。各地方事務所林務課、各小学校に配布されていますので、棚などをさがし、実践してみたいかがでしょうか。

（指導部 青柳智司）

《参考文献》

林野庁主催「平成19年度森林環境教育研修」資料教育課程と森林環境教育について（森林と子供たち） 国立大学法人 京都教育大学、山下宏文教授
平成19年度森林環境教育研修配布資料（財団法人キープ協会作成）2007年6月